

# 社会科学学習指導案

指導者 大西 弘員

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:50)
- 2 学年・組 中学校2学年2組 計40名(男子20名, 女子20名)
- 3 場 所 中学校2年2組教室
- 4 題 材 輸送業界の2024年問題
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会科 地理的分野 C 日本の様々な地域(2) 日本の地域的特色と地域区分 ア (エ)に重点を置いて指導を行う。ここでは、「国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。」となっている。これまでの私自身の授業実践においては、地理的分野・歴史的分野・公民的分野に共通して「持続可能な社会の実現に向けて」というページが教科書の冒頭にあることを大前提に、「学習の内容が、生徒の生活とどのように関連しているか?」ということ、授業づくりの軸にしてきた。こうした中、今回の授業で「輸送業界の2024年問題」を教材として扱うに至った理由としては、以下のような要因がある。

まず1つめに、2024年7月30日に、いすゞ自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市)から、オートマチックトランスミッション(AT)限定の普通自動車運転免許(普通免許)で運転できる、小型ディーゼルトラックが発売されたニュースを見たからである。いすゞ自動車のHPによると、「少子高齢化による担い手不足が生じており、国内経済を支えるトラックドライバーの人材確保は喫緊の課題であること」や、「ドライバーの裾野を広げるため、経済合理性の高いディーゼルエンジン搭載の小型トラックをAT限定の運転免許で運転できるように開発を推進した」(isuzu.co.jp)とあるが、少子高齢化については現在に始まったことではなく、長年、日本社会が抱える大きな課題の一つとなっており、「なぜ今、このような商品が発売されたのか?」ということに素朴な疑問を感じたからである。それについて調査してみると、「運転免許制度の変遷」と「時間外労働の上限規制が適応されたこと」が関係していることがわかった。

「運転免許制度の変遷」については、2007年6月1日以前に普通自動車免許を取得した者は、最大積載量5トンまでのトラックを運転することが可能であったが、2007年6月2日から2017年3月11日までに取得した者については最大積載量3トンとなり、2017年3月12日以降に普通自動車免許を取得した者については最大積載量2トンまでと、約10年の期間で段階的に、普通自動車免許で運転できる最大積載量が約60%も減少したことがわかった。

また、「時間外労働の上限規制が適応されたこと」については、2024年4月以降、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示)が出され、トラック運転者の1日の拘束時間が13時間を越えないことを原則とし、最大でも15時間とすることや、1日の休息時間について11時間以上を基本とし、9時間を下回らないこと、運転時間は2日平均1日9時間以内とすることなど、法改正がおこなわれたことが背景にあることもわかった。全日本トラック協会の試算では、これらが要因となり、輸送用トラックの輸送能力が2024年には14.2%、さらに2030年には34.1%不足するのではないかとされている。

こうした社会的事象を「教材にすることはできないか?」と考えた際、トラック事業者や荷主、そして生徒をはじめとした一般消費者にどのような影響が発生するのかを考えることにより、先述した

学習指導要領の目標を達成できるのではないかと考え、本時の授業を設定した。

本学級の生徒は、社会的事象への関心が高いだけでなく、ペアワークやグループワーク、ディベートなど協働的な学習を得意としている。特に風刺画やグラフや写真などの資料を読み取り、析することに長けている。反面、学級内の学力差は激しいものがあり、1年生の3学期に実施した実力テスト（5教科）の点差が280点、社会科においては63点とその差は歴然である。そのため落ち着きのあるなかで学習を進めていくことが苦手な生徒が多く、帰りのSHRでの振り返りでは、各教科担任から厳しい声をもらうことがある。

指導にあたっては、前時の段階で「トラック業界の2024年問題」に関する概念の習得を予め行い、本時では「トラック業界の2024年問題」が、「私たちの生活にどのような影響を与えているか?」、また「私たちにできることはないか?」ということ、多くの資料から協働的な作業を通して学び取る時間をしっかりと確保していきたい。

## 6 題材の目標

- (1) 「トラック業界の2024年問題」とは、どのようなものであるか、その概念を習得することができる。
- (2) 「トラック業界の2024年問題」が私たちの生活に与える影響について、トラック事業者や荷主、一般消費者の3つの立場から考えると共に、私たちができることについて考えることができる。
- (3) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それらを基に議論したりしようとする態度を養うと共に、身近な生活に置き換えて考えようとする。

## 7 指導計画（全2時間）

| 次 | 時 | 学習内容                           |
|---|---|--------------------------------|
| 1 | 1 | 「トラック業界の2024年問題」とは何か?について概念の習得 |
| 2 | 2 | 「トラック業界の2024年問題」の影響と私たち（本時2/2） |

## 8 本時の目標

「トラック業界の2024年問題」が生じた背景を踏まえ、トラック事業者や荷主、一般消費者の3つの立場から考えると共に、私たちができることについて考えることができる。【知識・技能】

## 9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

| 基準 | 具体的な児童・生徒の姿                                                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|
| Ⅲ  | 「トラック業界の2024年問題」の概念や背景を理解した上で、立場によって生じる困り感が違うことや、私たちにできることなどを、様々な立場で説明することができる。 |
| Ⅱ  | 「トラック業界の2024年問題」の概念や背景を理解した上で、どのような困り感が生じているかについて、内容を説明することができる。                |
| Ⅰ  | 「トラック業界の2024年問題」の概念や背景について、内容を説明することはできているが、それに伴う困り感や解決方法については触れることができていない。     |

| 手立て【関連する教師の資質能力】                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 「トラック業界の 2024 年問題」の事を生徒は知らないという前提のもと概念の習得をしっかりと行う【授業構想力】                            |
| ○ 「トラック業界の 2024 年問題」が起きた背景をしっかりと押さえる【授業構想力】                                           |
| ○ 「トラック業界の 2024 年問題」の影響について、立場を変えて考えると共に、私たちに、どのようなことができるか、自分事として捉える【授業実践力】【授業分析・評価力】 |

## 10 学習の展開

| 学習活動と内容                                                                                      | ○指導上の留意点（◆評価）                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. トラックのCM(映像)と広島バスの前面(画像)から、輸送業界でどのような課題が起きているか予想する。                                        | ○ ペアで前時の内容について振り返る時間をとる。                                                                                       |
| 2. 「トラック業界の 2024 年問題」が起きていることに気付く。                                                           | ○ 運転免許制度の変遷や、時間外労働の上限                                                                                          |
| 「トラック業界の 2024 年問題」について、3つの立場から影響を考え、<br>私たちにできることについて提案することができる。                             |                                                                                                                |
| 3. 資料から「トラック業界の 2024 年問題」の影響について、3つの立場から読み取る。<br>・「トラック事業者」の立場。<br>・「荷主」の立場。<br>・「一般消費者」の立場。 | ◆ 多面的・多角的に「トラック業界の 2024 年問題」について考察している。【知識・技能】<br>○ 資料をグループで読み取る時間をしっかりと確保する。<br>○ 多面的・多角的に思考・判断することができるようにする。 |
| 4. 3つの立場で、どのような影響が発生するか全体交流する。                                                               | ◆ 立場によって「トラック業界の 2024 年問題」が違ふことについて、相手にわかりやすい工夫して表現することができる。【知識・技能】                                            |
| 5. 4の活動を踏まえて、「トラック業界の 2024 年問題」の解決について、私たちができることについて考える。                                     | ◆ 3つの立場の者が納得できるような解決策考えることができる。【知識・技能】                                                                         |
| 6. まとめとして、この問題は 2024 年だけにとどまらないことを教師は押さえる。                                                   | ○ 現在、起きている問題が将来に渡って起きる可能性について認識することができるようにする。                                                                  |